



東明

□令和3年9月1日発行
□男鹿市立男鹿東中学校
男鹿市船越字根木169番地

東中生の可能性は無限大

中学生オリンピックの「自信をもって笑顔で挑戦」する姿に学ぶ

◆2021年の夏休みを振り返る

32日間の夏休みが終わり、前期後半がスタートしました。そこで、東中生の夏休みを振り返ってみます。

夏休みに入っすぐ、全学年で三者面談が行われました。東中生一人一人の学習や生活が今後一層充実するよう、面談を通して自分自身を見つめ直し、今後の取り組み方を確認しました。

3年生は高等学校の体験入学に参加しました。高校生としての来年の自分の姿を具体的にイメージすることで、将来の夢の実現につながる進路選択に向けて、意識を高めることができました。

部活動では、東中健児の英志が大きく花開きました。ラグビーは県総体で優勝、そしてその勢いは止まらず、北海道・東北大会でも優勝を果たし、念願の全国大会出場を決めました。すばらしい快挙です。バスケット女子、柔道女子、陸上は、東北大会に出場しました。バスケット女子と陸上は残念ながら全国大会への出場はかありませんでしたが、今持てる全力を尽くし、記憶に残る白熱した試合やレースを展開しました。柔道女子は敗れてしまったものの、県大会の結果を受け、個人で林音芭さんが全国大会へ出場しました。また、吹奏楽は、コンクール県大会において、地区大会以上に心がこもった演奏で、銅賞に輝きました。生の演奏が披露される東中祭が待ち遠しいです。地区の代表として、そして秋田県の代表として大会に出場した全員が、東中生としての誇りを胸に、立派にその役目を果たしました。

そして、記録的な暑さの中、毎日の部活動に登校した皆さんは、練習はもちろんのこと、自主学習や花壇の水掛けなどにも大変よく取り組みました。その成果が、秋には大きな成果となって現れることでしょう。夏休み中に収穫されたミニトマトは、衛生検査をした上で、何らかの形に加工して給食に登場することになります。楽しみです。

このように、今年の夏休みは、東中生が志を貫き通そうとする姿をたくさん目にすることができ、うれしく、誇らしい気持ちで一杯です。この1か月間で、本当にたくましく成長しました。

◆東京オリンピックにおける中学生の活躍

そして、夏休みには、昨年から延期になっていた「東京オリンピック 2020」が行われました。コロナ禍における厳重な感染予防体制の中で、金メダルに挑むオリンピックたちの汗みなぎる姿に眼は釘付けでした。

また、今回のオリンピックでは10代の選手の活躍がめざましく、特に中学生の選手の活躍は日本中を驚かせました。

スケートボード女子ストリートで金メダルを獲得したのは西矢 栞にしやもみじさん、中学2年生です。ふだんから笑顔を絶やすことのない中学生で、インタビューでも、今できる自分の技を平常心で全部出し切ったと満面の笑顔で答えていました。

また、同じくスケートボード女子パークで銀メダルに輝いた開心那ひらきここなさんは中学1年生。日本人最年少で初出場というプレッシャーの中、オリンピックを楽しめた、予選より決勝の方が滑りのレベルを上げられたと語り、大人顔負けの度胸のよさを発揮しました。

男子高飛び込みで7位入賞を果たした玉井陸斗たまいりくとさんは中学3年生。予選の演技を通して、本番でも自分が練習でやってきたことを披露できると分かり、それが自信になったと話していました。

世界を相手にするオリンピックにおいても、中学生が対等に活躍できる新たな時代が来たと実感しました。

彼らに共通することは、レースや演技の本番で、これまでの厳しい練習の積み重ねを基盤に自信をもって実力を発揮できたこと、そして、笑顔でプレーを楽しんでいたことだと思います。まさに、本校の目指す生徒像の一つ「自信をもって笑顔で挑戦」する姿そのものでした。

中学生オリンピックの皆さんの大活躍する姿に、夏休みに全力を尽くして頑張った東中生の姿が重なるとともに、同世代である東中生の可能性も無限大であることを確信しました。

◆前期後半のスタートに向けて

前期後半には、東中祭や新人戦があります。東中祭では運動会での経験を生かし、それ以上に、全校生徒の絆が結ばれる瞬間を創り上げることに期待します。新人戦では、先輩から受け継いだバトンをしっかりと握りしめ、夏休みの暑く厳しい環境の中で積み重ねてきた練習の成果を糧に、自信をもって笑顔で挑戦する姿を見せてくれることと思います。

東中生の無限の可能性に、そして、東中生一人一人にとって充実した前期後半になることを、期待しています。

(文責 森山)